

社

民主党を離党した後、民主
主党・無所属クラブに

入会し、国土交通委員会の筆頭理事に就任した辻元清美氏。政局と同じように、この人の動きもめまぐるしい。「選挙に勝つため」「権力の座にいたいから」と揶揄する声も聞こえてくるが、その真意とは――

政権の中で 頑張るのが筋

私が社民党を辞めたのは、社民党が政権離脱する過程で、政権に対するスタンスの違いを感じるようになったからです。参議院選直前に連立解消の問題が起こったとき、私は「連立政権では、自分たちの政策がすべて通るわけではない。ねじれ国会なのだから野党とも調整して、譲るところは譲らないと。たった8ヵ月で政権を投げ出すのは無責任だ。そんなことをしていたら政治はいつも不安定になる」と主張しました。以前から、社民党は政権に堪えうる政党にならなきゃいけないと思って、3年以上にわたって民主党、国民新党と野党共闘を進め、政策のすり合わせをしてきました。私は、せっかく政権をとれたのだから、積極的にキャスティングボートを握って、社民党的な価値、平和や人権、環境、

そして男女平等というほうに政策を引っ張っていかうと張り切っているときだったのですね。

確かに沖縄の基地問題というのは社民党にとっては大きな問題だから、福島瑞穂さんはあせざるをえなかったのでしょう。でも、別の方法をもっと探るべきだったのでは。亀井静香さんのように、自分は大臣を辞任しても別の人を大臣に送り込んで、しぶとく与党のなかに続ける方法もあるわけです。

戦後ずっと自民党政治が続いてきたなかで、小選挙区制のもとの政権交代は、今回の民社国政権が初めてです。私は、「政権をまかせてくれ」と選挙を戦って、有権者のみなさんに「やってみろ」と判断いただいたからには、泥をかぶってでも政権のなかで頑張っていくのが筋だ

ほんまは平凡が一番やけど……

と思った。大阪人やから、ねちねちしぶといねん。(笑)

たとえば、みなさんが持つておられる私のイメージは、野党時代の「総理、総理！」と小泉純一郎元首相を追及する姿(笑)。ほんの一瞬の映像が固定化されてしまったけれど、あれは、現政権を倒して、自分たちで政権をとって政策を実現しようというベクトルで与党を批判したり問題を追及したりした姿です。野党の機能としては、政権をチェックしていくことがとても重要。しかし、永遠に「総理、総理！」と追及ばかりしているつもりはありませんでした。政治の場に身を置くものとしては、自分のやりたい政策を実現していくためにはどうすればいいか考えないといけない。その結果、苦渋の選択で離党しました。

実現に向けて 行動できる与党

昨年の政権交代後、当時の前原誠司国土交通大臣に指名していただき、国土交通副大臣となりましたが、当初、副大臣は積極的に行きたかったわけではないんです。指名を受けたとき、社民党で女性初の国会対策(国対)委員長という役割をもらっていて、政権交代してから国会運営をどう行っていくかを、民主党の小沢一郎幹事長(当時)らと6人のチームを作って話し合っていたんです。これまで、国会の「切った張った」は男の仕事だとされてきたので、初の女性国対委員長として頑張ろうと張り切っていました。国会と政府の仕事を兼務するわけにもいきませんから、最初は「ありがたいけれども、

泥の中でしか育たない 蓮の花になる

構成◎島崎今日子 撮影◎滝浦哲

国対委員長をやらせてください」と社民党の重野安正幹事長に申し上げたくらいです。

どちらのポジションもやり甲斐があります。ただ、どちらに力があるかという国対のほうかもしれない。いくら立派な政策を作っても、法案を作っても、国会で成立させへんかったらおじゃんです。ですから、政府内にいたときの私は、国会でもう平身低頭でしたよ。「早めにこの法案をやってください」「なんとか通

辻元清美

衆議院議員



してください」などと、与野党問わず事前に国対関係者に根回しにいく。で、通してもらったら、必ず「ありがとうございます」と、各党に挨拶をしていました。商売人の娘やから、腰を折るのは全然苦じゃない。副大臣に就任したとき、国交省の人たちは「あのうるさい『総理、総理！』が来た」と思ったやろね(笑)。そやけど、私は官僚と信頼関係を築いて一緒にやろうと思った。最初の訓示で、「政治主導」というのは政治

家がしっかりすることだけ、みんなやるんだ」と話しました。

私は、人が新しいものに対面するとき、3つの気持ちを持つと思っていて、1つは「えらそうな顔で来やがって」というような反発する気持ち。1つは、「やれるならやってみい」というお手並み拝見の気持ち。そしてもう1つは、「面白そう」とか「なんか変わるやろか」とわくわくする気持ち。だから、「わくわくする気持ち」が大きくなるようにしたい」と、

みなさんに申し上げたんです。官僚ともとことん話して、互いに納得してから一つひとつの案件に取り組みました。イメージとは違って、私は本来、調整型の政治家なんですよ。

副大臣の仕事は厳しく、しんどいものでした。とくに国交省といえば、政官業癒着の温床と言われていたから。ダム問題をはじめ、47都道府県に98もある空港は、ほとんどが赤字。そんなところに入って、無駄に使われていた税金を教育とか福祉に回す、最前線の切り込み隊長みたいなことを前原チームでやっただけです。だから緊張はするし、毎日が真剣勝負みたいな気持ちで臨んでいた。

けれど、批判を恐れずにやればいくつものことができました。潰れそうなおなJAL(日本航空)の処理や、中国からの個人観光客のビザ発給要件の緩和など。いま、中国人観光客が増えて、内需にプラスになっていきますよね。タブーだった羽田空港の国際化にも手をつけました。昨年の秋、羽田に長距離国際便を飛ばすと言っただけで、大バッシングがやっただけです。でも、えいやーって「飛ばす」と決めて、一つひとつ関係者に説明していったら、悪戦苦闘して半年かけて実現させた。いま、羽田が賑わって、欧米便も飛んでいる。経済の活性化につながるんじゃないかと、ち

よつと明るい話題になっているのがうれしいですね。

国交省と労働組合で対決してきた戦後最大の労働問題も、23年ぶりに和解に持ち込みました。国鉄がJRになったときに、労働運動をしていた1047名の方々が職に就けなかったといわれている問題です。野党時代に私たちは何度も国交省に申し入れたけれど、一歩も動かなかつた。やはり野党ではなかなかできない。政権交代があつたればこそ、解決できた問題でした。口で言っているだけではない、実現に向けて行動できる与党という立場の力を実感しました。

日本は瀕死の状態にある

今回、民主党の会派に入ったのは、一言で言うとう仕事をしたかつたから。「国土交通委員会の筆頭理事に」と民主党からお話をいただいたとき、副大臣としてやってきた政策を引き続き実現したくて、「じゃあ、会派に入ります」とお引き受けしました。選挙のため？ たしかに私たち政治家はいつも選挙にさらされているけれど、なんでもかんでも選挙で動くわけやない。やっぱり基本は、政策実現のためです。

いま、日本は待ったなしの危機に

直面しています。自殺者は年間3万人を超えるし、若い人は仕事がないし、山のような赤字があつて、円高でデフレの厳しい状況の中にある。連立政権に入つてみて、野党で考えていたときよりも、日本という国が瀕死の状態にあるということを感じました。だから、いまなんとかせなあかん。現状を1ミリでもいい方向に動かすために自分がどの位置で働いたらいいだろうかと考えたときに、自分の理念や理想を達成



するには政権とかかわりをしっかりと持つほうがいい。やれることがわかつているのなら、やれる方向に自分の身を置くのが本当の政治家じゃないかと思つたんです。

権力はいい方向に使わないと、社会が目茶苦茶になります。私は辞職も逮捕も経験して、権力の怖さも、権力を濫用してはならないということも骨身に染み込んでいる。大事なことは、何をするか。何のために政治があるのかという羅針盤が間違わなければ、権力は有効に使えるはずですよ。

民主党と社民党では政策面で隔たりがあると言われますが、民主党の中にもいろいろです。普天間基地の問題にしても、沖縄に新しい基地を作るのは難しいと思つている議員はたくさんいます。民主党だけじゃなくて、たとえば自民党の加藤紘一さん、たちあがれ日本の与謝野馨さんや園田博之さんといった方々とは仲がいいし、同じような思いを持っている。全員一致でなければ実行できないということではなくて、いろんな考えの人がいる中で、まずそういう人たちとネットワ

ークを作つて頑張つていきたいと思つています。新党を作る？ それは口で言うほど簡単なことじゃないからね。(笑)

与野党を超えて仲のいい人が多いのは、やっぱり経済的に苦しい家庭に育つて、親戚に預けられていた時期があるので、いろんな人と一緒にやつていかないと生きていけないかつたというのはあります。だから、こんな性格になつたんでしようね。

小沢さんとも仲良くやつていきますよ。小沢さんが新進党や自由党にいらつし

つじもと きよみ
1960年、奈良県生まれ。早稲田大学在学中の83年に、民間国際交流団体「ピースボート」を設立。96年、社民党近畿ブロック比例代表から立候補し当選。元国土交通副大臣。2010年8月、社民党を離党。同年9月には、衆議院の会派「民主党・無所属クラブ」に入会

選挙協力の話など一緒に仕事をさせていたので、お互い気心は知れているという感じはします。菅直人さんとも、ピースボート時代から親しいからね。えっ？ もし民主党員だつたら代表選のとき、どっちに投票したかつて？ 「両方親しいから、難しいところやな……」。それは言われへんわ。(笑)
私は、政治というのはだれとでも話をしないとけない、しなくなつたら終わりやと思うんですよ。だから、よく「前原さんはタカ派なのに

一緒に仕事をするのはけしからん」と言われるけれど、だからといって口をきかないというのは政治家の仕事じゃないんですよ。考え方が違う人がいたら、その人にこそ積極的に働きかける。危ない方向へ向かう「ヤツ」がいたら抱きついてでもこつちを向かせるぐらいの根性があったらでけへんと思う。そこが市民運動と違うところ。

菅政権は苦しいです。昨日も菅さんに電話しましたよ。「APEC(アジア太平洋経済協力会議)、しっかりとしいや」て。菅さん、笑っていたけれど、いろいろ言われながらなんとかしようとかあがいてはるわね。私たちが連立政権に入ったときに、成果が見えるまでに2年はかかると思っただんです。1年目は現状を把握して、何が問題かを診断し、そのうえで方向転換の方針を出して、次の1年で

やっとな変化が見られると。ですから、前原さんたちとは「2年間は何言われようが、静かな革命やと思って黙々と仕事しよう」と言うてたの。

ただ、ねじれ国会になってしまっただからね。いろんなこと変えていこうと法案を作っても、参議院で野党が否決したら、その法案は一步も動けなくなる。すごく厳しい政治状況になってきているわけです。国会運営も危機的状況にあると思っっています。だから、大事なことはこをどう乗り切っていくか。熟議の民主主義というか、待たなしの日本を与野党と一緒に考えていくように、超党派で一つのテーマを議論する場をつくつて作ろうとしているところです。

60歳まで走り続けたい

政治家になってよかったかって？

(沈黙して)……すぐに答えられへんところが、きついな(笑)。やっばり平凡が一番。平凡がええわあ。最近はやっとな辛いからね。けれど、自分が辛い気持ちになっていくと人を幸せにできないと思うから、できるだけポジティブに、楽しくなろうとしていきますけど。以前は、いろいろとマスコミに追われていたけれど、私生活のほうは、最近はずっと材料もないな(笑)。土井たか子さんの道、まっしぐらかな。アハハハ。この間、「総理を目指す」と言ったと週刊誌に書かれたけれど、私はいつか、日本にも女性の総理が出なあかんと思ってるの。オーストラリアもフィンランドもドイツも女性が総理。副大臣をやつてつくづく思いましたよ。ある一定の意思決定の場になると、いつも女は私一人やねん。で、国際会議などで外国に行くとき

も随行員は全部男。でも、外国の代表団は半分、少なくとも3分の1ぐらいは女性。日本も変わらないといけない。今年50歳になって、政治活動を始めて15年目に入りました。どんな仕事でも15年くらいいたら大体見えてくる。これまでアップダウンが激しかったから、そのぶん、足腰は鍛えられているでしょう(笑)。その経験を生かして、一番仕事のできるこの10年間を走り抜きたい。ある人に、「権力に近寄ったり、権力と付き合ったりすることを恐れるな。清く正しい水の中であかいう泳がんと言っているようではあかん」と言われました。別の方から、「蓮の花になれ」と言われた。蓮の花というのは泥の中でしか育たないのだからです。政界という泥の中で、きれいな花を咲かすことを目指します。

旅行読売

2011年
1月号
書店・コンビニ・駅売店等で好評発売中
定価 440円(税込)

第一特集

新春につぼん歴史旅

- 【武将ゆかりの温泉】信玄が眠る寺を訪ね、隠し湯につかる……川浦、下部温泉(山梨県)
- 【映画・ドラマの舞台】ロケセットや潘校を巡り浪士の志を思う……水戸、大洗(茨城県)
- 【名 城】「赤備え」の井伊家居城から三成の佐和山を眺める……彦根城(滋賀県)
- 【宿 場 町】徳川家ゆかりの逸話が多い格子の家並みを歩く……関(三重県)
- 【開運スポット】荘厳な彫刻が彩る世界遺産で新年の幸福を祈る……日光(栃木県)

など、36コースを紹介

新青森駅が開業
冬の青春18きっぷ
この冬おすすめ 鉄道旅

創刊45周年特別企画 第1回

巻頭大型インタビュー 谷村新司さん

旅行読売臨時増刊

高速バス

定価880円(税込) 全国書店で好評発売中

旅行読売出版社

〒103-8545 東京都中央区日本橋小網町18-3
TEL.03(5847)8271(代) FAX.03(5847)8270
http://www.ryokoyomiuri.co.jp/